

## Women's Health Research

順天堂大学大学院医療看護学研究科教授

高橋 真理

Women's Health (女性の健康) は、誕生からエイジングまで、女性の生涯にわたる健康問題を扱う学際的な領域です。女性の健康は、当然、子どもを産む性としての生殖機能に著しい性差がありますが、このような生物学的な性差と同様もしくはそれ以上に、心理社会文化的要因すなわちジェンダーの影響を強く受けております。これまで健康のアウトカム指標は、罹患率や死亡率からみることが多かったですが、女性の場合は、生活の質 (QOL) や社会参加率なども重要な指標になります。現在、日本女性の平均寿命は世界第1位ですが、男女の格差を測るジェンダー・ギャップ指数 (GGI) は142か国中104位 (2014年) とビリに近いことから、わが国は、真の意味での女性の健康を問い直すことが必要であると言えます。

ヘルスケアの世界的現象として、昨今はエビデンスに基づく医療・実践 (EBM・EBP) が求められています。治療法 (介入法) の効果や意思決定のためのエビデンスなどが検証され、最新の研究による最も利用価値の高い科学的な根拠が推奨されています。保健政策への影響も大きいです。しかし、これまでの科学的、実証的な研究結果から得られた EBM・EBP は、果たして女性によりよいヘルスケアすなわち社会の中で健康または幸福に生きることを提供する方向を示していたでしょうか。この点は難しいと考えます。なぜなら、臨床研究の多くから女性を除外してきたジェンダーバイアスが影響した結果を一般化してきた点、女性にとって重要なテーマ (女性特有の痛みや苦痛など) を軽視してきた点、女性の声を聞きやすい質的研究はエビデンスレベルの階層が低いとされてきた点などからです。

近年、欧米の Women's Health は、ヘルスケアの中で目覚ましく発展している分野の一つですが、研究は、性差の違いを臨床、細胞、分子レベルで行うことを考えています。そして、セックスとジェンダーが健康に及ぼす影響に関する学際的な研究を推進しています。

最新の科学に基づく女性の健康の研究は、今新たなチャレンジが求められています。そこで、本講演では、Women's Health Research を、以下の疑問から皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

1. EBP (Evidence Based Practice) に基づく Women's Health Research とは？
2. Women's Health の代表的な研究機関である米国 NIH の Office of Research on Women's Health (ORWH)、豪州メルボルンの Jean Hailes はどのように発展しているか？
3. セックスとジェンダーは健康や疾病にどのような影響があるか？
4. 女性の健康の研究はどのようにされるべきか？  
—行動科学的アプローチと Feminist リサーチ方法論から
5. 女性が自身の健康を自律的に決定するためには？